

【優秀賞】

【水道は命をつなぐ】

名古屋市立植田中学校 三年 松本 明笑

今年のお正月に、北陸地方で地震がありました。私たちの住む震源から離れた名古屋市でも、揺れを感じるほどのものでした。その地震による被害を伝えるニュースで、そこに暮らす人たちが普段通りの生活ができなくなったと、毎日見聞きしました。色々な面からのニュースがある中で、「ライフラインの復興」、特に『水道の復興』を望む声の多さはとても印象的でした。これがきっかけで、私が小学生のときに、先生が話してくださった海外の水事情のことを思い出しました。日本ではあたりまえである水のことを、改めて知ってみようと思い、調べてみました。

調べて驚いたことの一つに、世界各国に住む人たちには、きれいで安心できる水を十分に飲めていない人が数多くいるということです。それに加え、不衛生な水を飲むことで、病気にかかり命を落としてしまう人たちも少なくはないということです。世界中では、六十人にたった三人しか安全な水を使用することができない状況だそうです。また、十人にたった一人しか基本的な水のサービスを受けることができない実態となつています。このような所で暮らす人たちは、湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用して生活しています。そのような管理されていない水は、動物の汚物や、ウイルス、雑菌が多く混じっているため、そのまま飲むには危険があります。そんな危険な水とともにしか生活を送れない環境では、水が原因で5歳を迎える前に命を落としてしまう子どもが毎日、七百人にもおよんでいるということです。調べていくうちに驚きよりも、とてもつらく、悲しい思いになってきました。また、約二十億人もの人々が、トイレを使用できていない状況下のため、その人たちの多くは野外で排出するしかなく、直接川に糞尿を流し、水質が汚染し飲料水として利用できなくなる状況を作り出していることも少なくないようです。「世界で最も汚染された川」と称されるチタルム川は、川沿いに住む約三千万人の生活を支えています。その川の水質は、アメリカ

で安全な飲料水の基準値を千倍も上回った危険な鉛が含まれているのだそうです。このように、水道が整っていない地域では、そんな飲料用に適さない水を使用するしかないのです。

私たちが暮らす日本では、水に恵まれた環境が整っていますが、地球温暖化や水源の破壊によって、将来の生活環境に、水問題が他人事ではなくなる可能性はあります。つまり人間が生命に欠かせない水を、自ら失うということです。こんなことにならないために、今を生活する私たちができることは、「水の無駄使いを減らす」「水の問題を作り出す現状を知る」「水を維持するための自然環境を守る生活をする。また、そのための募金をする。」などだと思います。私自身普段、洗顔中や歯磨き中に水を出しっぱなしの無駄使いをしてしまっています。また、キャンプでは、お米を研いだ時の水が汚染につながるから、無洗米にした方が良いということを知ることがあります。このように生活を振り返ると、「命に大切な水」を守る行動が一人ひとりにできることに、今回の調べ学習で気づかされました。世界の水の事情を知りえることができつつあったと思います。このことを活かして、こまめに蛇口を止めることから、はじめ出しました。周りの友人も率先できたらいいなと思います。自分ができることは些細なことかもしれませんが、世界の人たちに必要な水が届くことにつながればと思います。行動していきたいです。